

本の未来－印刷書籍と電子書籍

2013年5月23日

植村八潮

専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科
(株)出版デジタル機構

植村八潮



- 専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科
教授 博士(コミュニケーション学)

- 出版学, 電子出版論, デジタルメディア研究, デジタル読書, アクセシビリティ
- コンテンツ生成から流通, 読書環境まで
- 標準化(文字コード, 外字異体字, フォーマット)



- 株式会社出版デジタル機構取締役会長

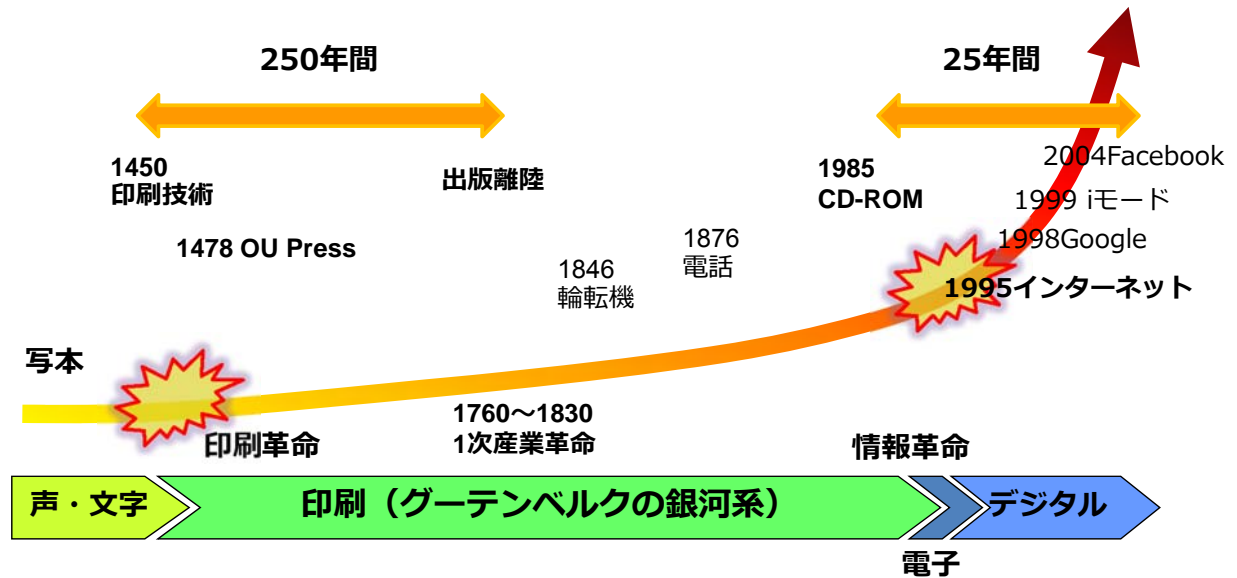


- IECTC100/TA10(国際電気標準会議eブック標準化分科会)マネージャー

- 主要著作:『電子出版の構図:実体のない書物の行方』(印刷学会出版部, 2010年)ほか

情報量増大の社会的・技術的要因

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化
デジタル複製とネット流通によって劇的な変化



2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

3

出版産業の国際化とIT化

- 出版産業は、言語依存し、各国固有の社会制度、文化に深く関わって発展
- グーグルブック検索訴訟和解の衝撃(2009)
- 携帯電話、スマートホン、タブレットPC、電子書籍端末などデバイスの普及
- アマゾン、アップル、グーグルなどプラットフォームの躍進
- 活字離れではなく、情報流通の変化と読書の多様化



- 電子出版市場の拡大、あらたなる出版産業の育成策が求められる
- 出版文化を支える新たな制度設計を官民協働(公共)で取り組む必要

2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

4

日本の電子書籍市場の特徴

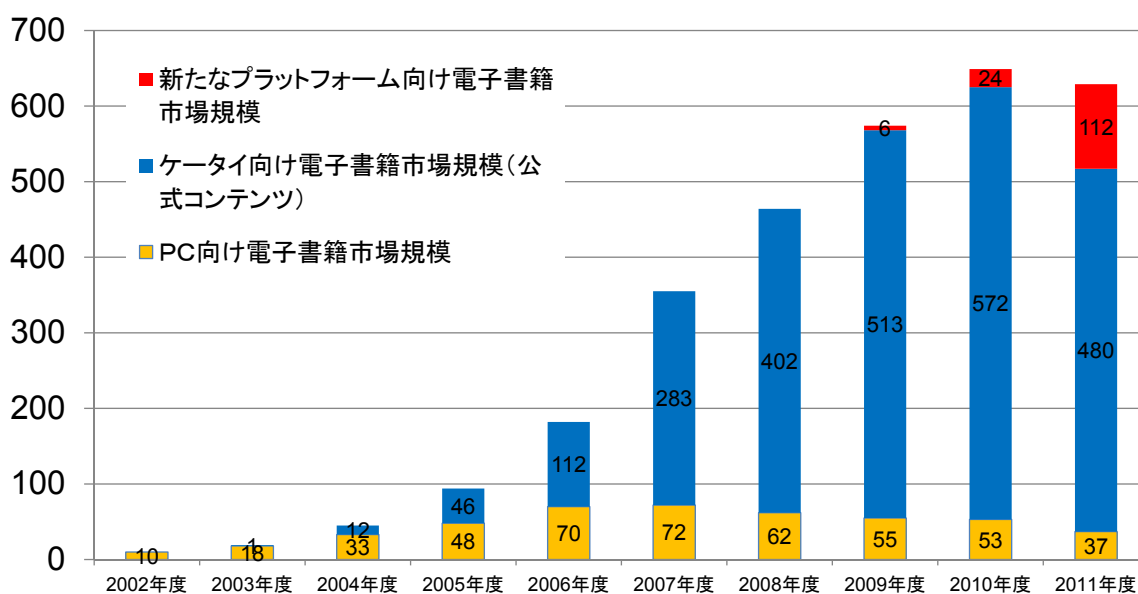
- 日本型電子出版市場
 - 電子辞書・コミック・ケータイ小説など成功事例
 - 携帯電話向けが主流で電子書籍売上げの約9割。
 - コンテンツの多くはコミック。急速なスマホ移行の中でケータイコミック市場が激減
 - 2011年 国内電子書籍市場、629億円(3.2%減)
 - 約20万点のうち、文字作品は約5万点
- 電子書籍端末市場への移行
 - 2009年 米国における電子書籍端末市場の成立
 - 2012年 紀伊國屋書店, Kobo, Kindle, BookLive(凸版系)

2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

5

2011年国内電子書籍市場、629億円(3.2%減)



(出所: 株式会社インプレスR&D著「電子書籍ビジネス調査報告書2012」を基に作成)

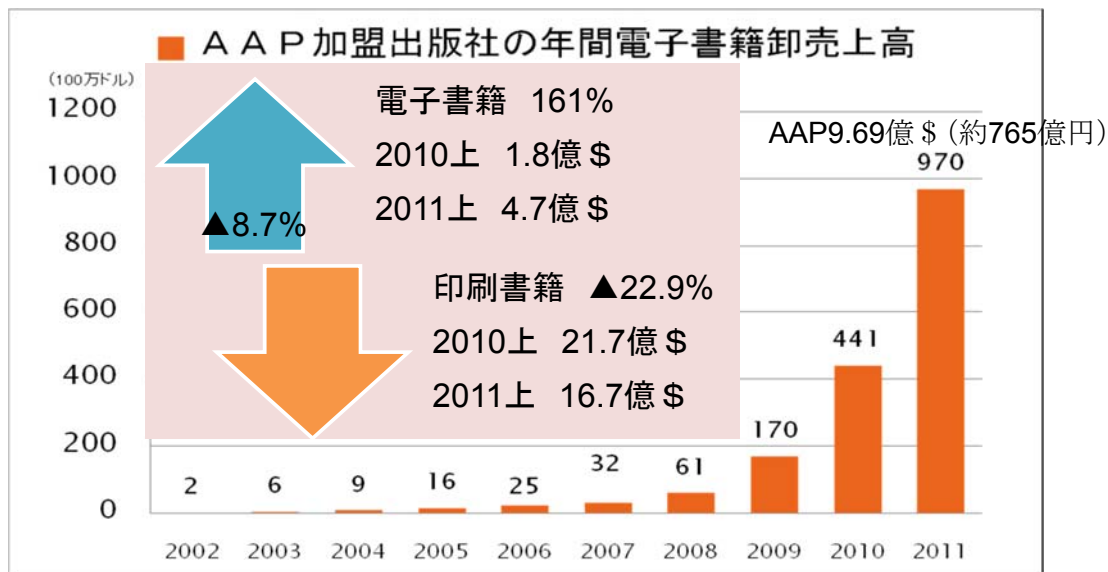
2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

6

米国電子書籍市場の拡大と問題

AAP/BISG書籍市場統計レポート「BookStats」を発行
2011年度米国電子書籍売上高20億\$ 1580億円以上



(出所: AAP(アメリカ出版協会)のデータを基に作成)

“カニバリズム”か“イノベーション”か

- 背景
 - 印刷技術からデジタルネットワーク技術へ
 - 印刷物からデジタルコンテンツへ
 - 物流から情報流通(ネットワーク)へ
- カニバリズム
 - 電子書籍が印刷出版市場を奪い、価格破壊を起こし、市場規模が小さくなる(プラットフォームの躍進と寡占)
- イノベーション
 - 電子書籍が既存のビジネスモデルを破壊するが、そのことで新たなビジネスが生まれ、新しい表現をユーザーが受け入れ、市場創出により規模拡大が起こる(self publishingの注目)
 - E.L.ジェームズ3部作『Fifty Shades of Grey』世界6,300万部突破

電子書籍とは何か？

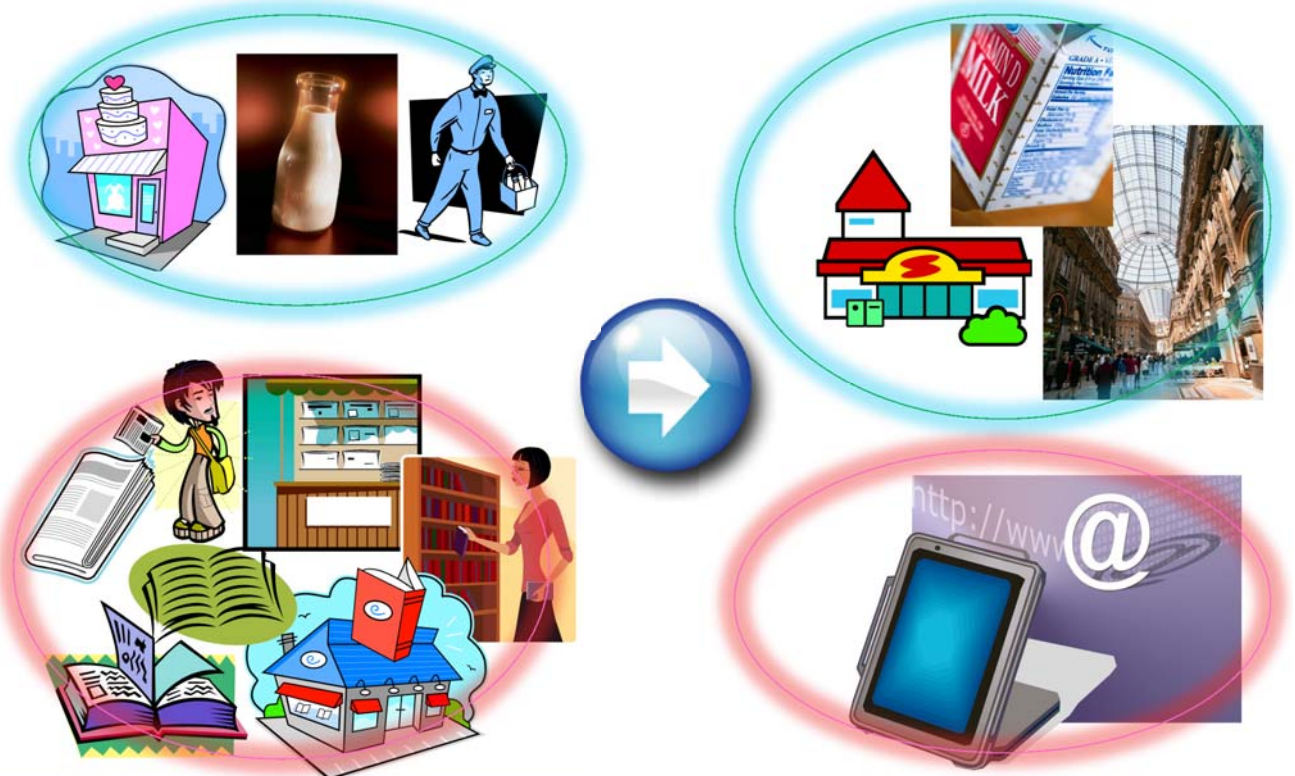
- 電子書籍(出版物の電子化)
 - 定義「既存の書籍や雑誌に代わる有償の電子的著作物(デジタルコンテンツ)で、電子端末(ハード)上でビューワー(ソフト)により閲覧されるフォーマット化されたデータ」
- 書籍=内容(コンテンツ)+パッケージ
- 電子書籍=[書籍(+雑誌)]のコンテンツ
- 電子書籍端末=表示装置(ビューワー+ハード)
- 電子書籍の読書: 端末で電子書籍を表示
- コンテンツとパッケージの分離が意味するところ
- 流通チャネルの変化

2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

9

流通チャネルとパッケージの変化

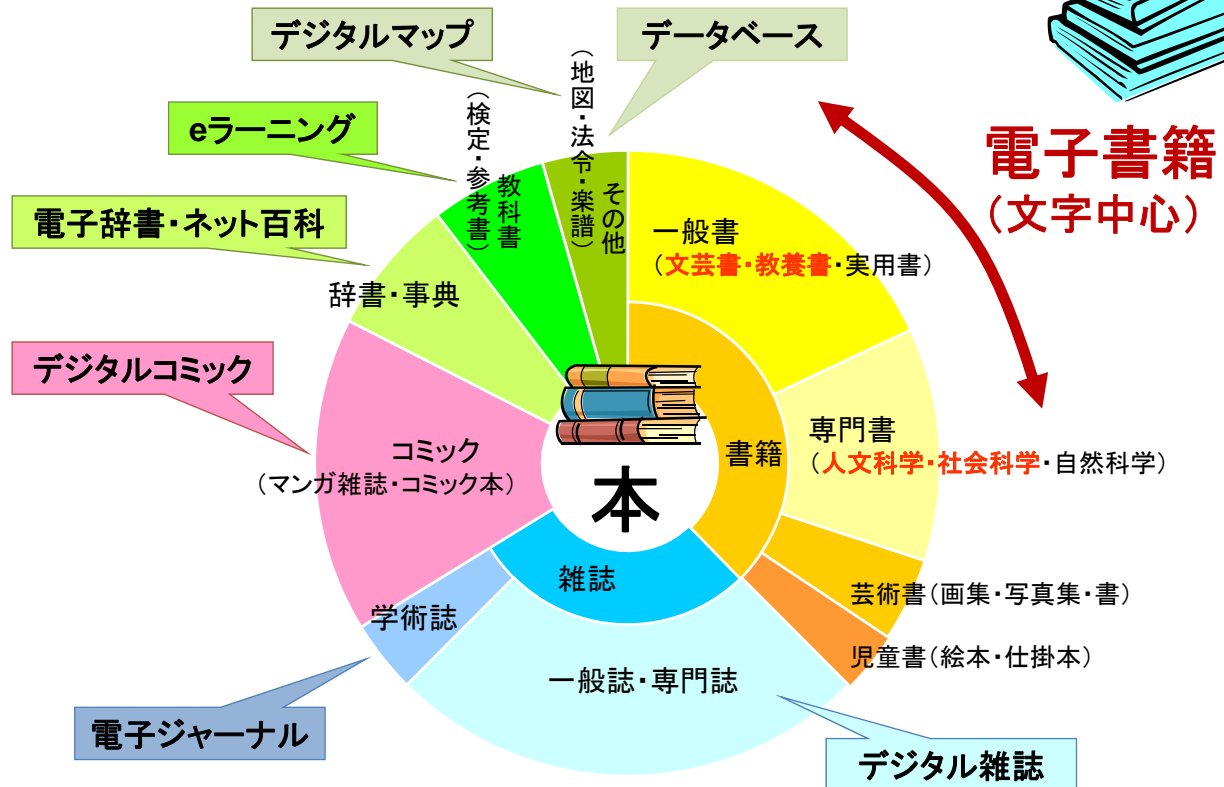


2013/5/23

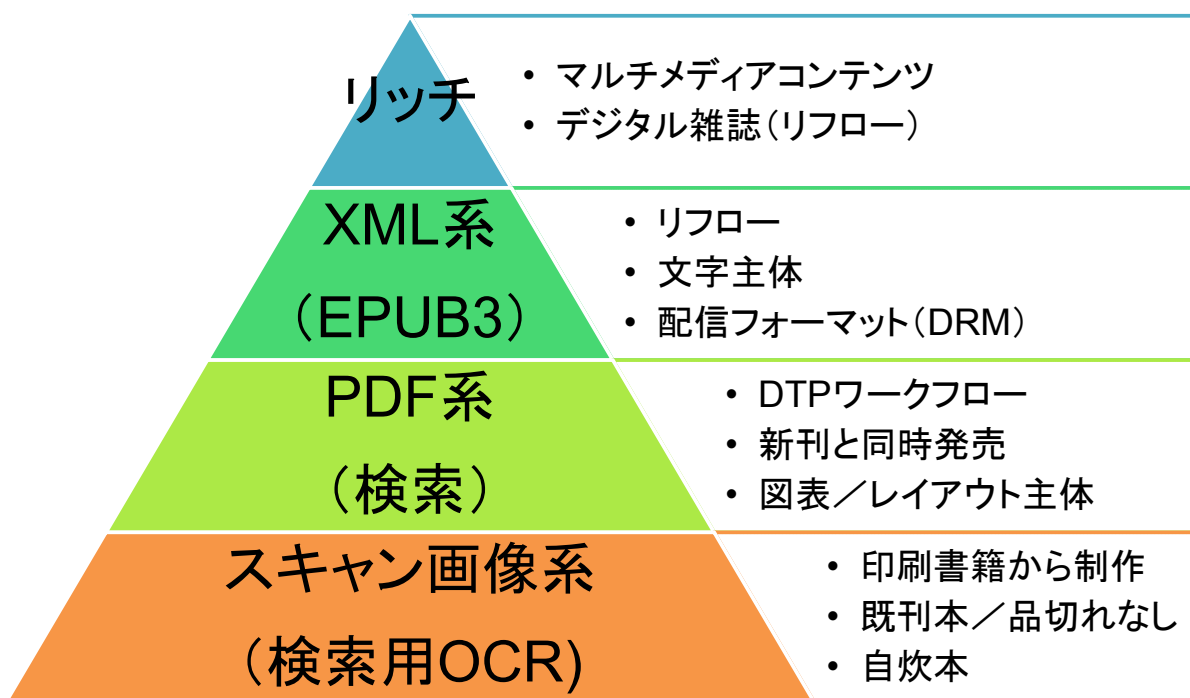
© Yashio Uemura 2013

10

「電子書籍」に向く本の種類



電子書籍コンテンツの多様なつくり



電子書籍(端末/コンテンツ)の三つの流れ

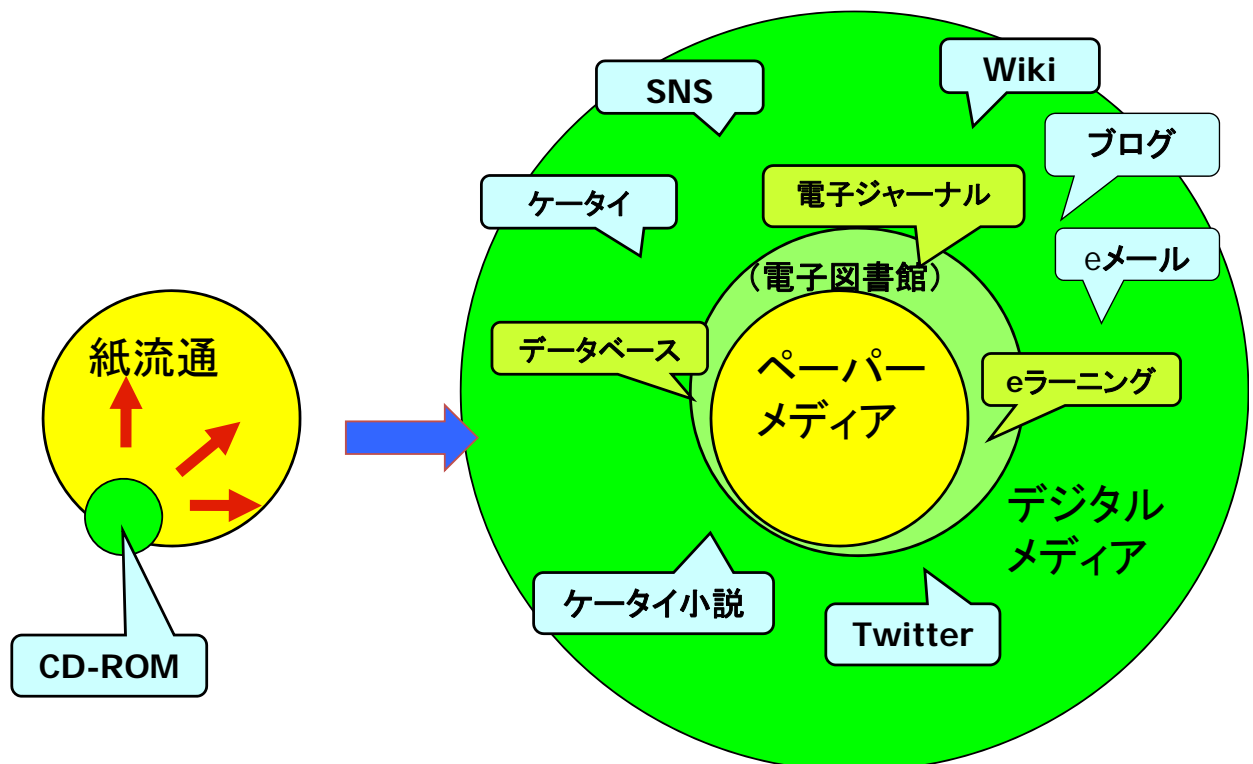


2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

13

文字情報流通の主役交代



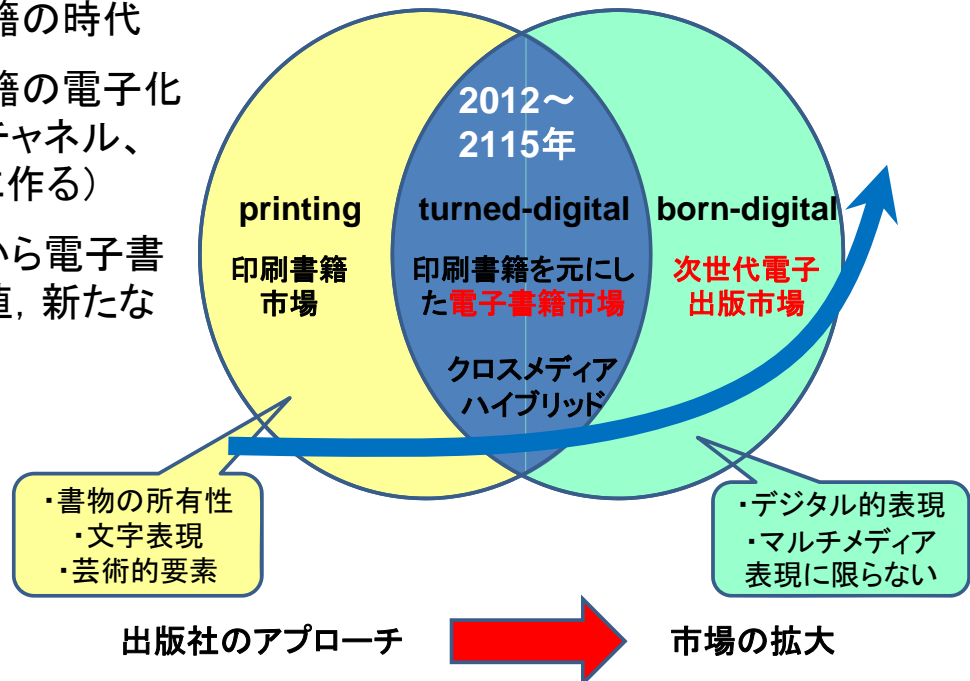
2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

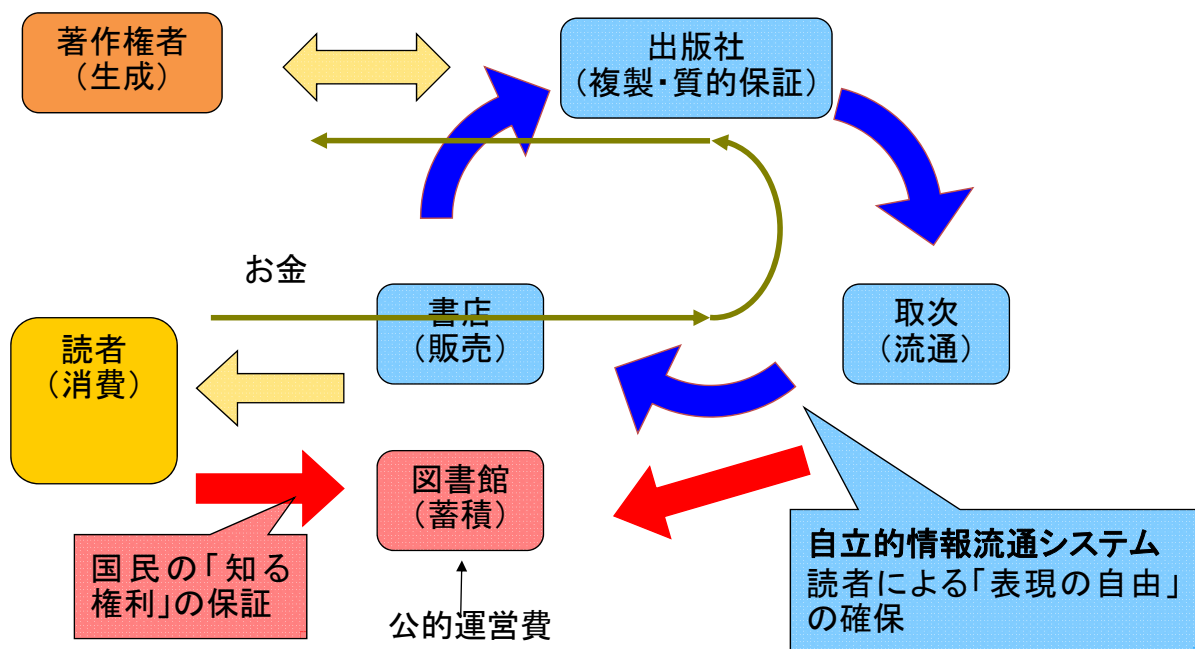
14

書籍と電子書籍の将来市場

- 過去: 印刷書籍の時代
- 現在: 既存書籍の電子化
(新たな販売チャネル、早く安く多量に作る)
- 将来: はじめから電子書籍(新たな価値, 新たな表現)

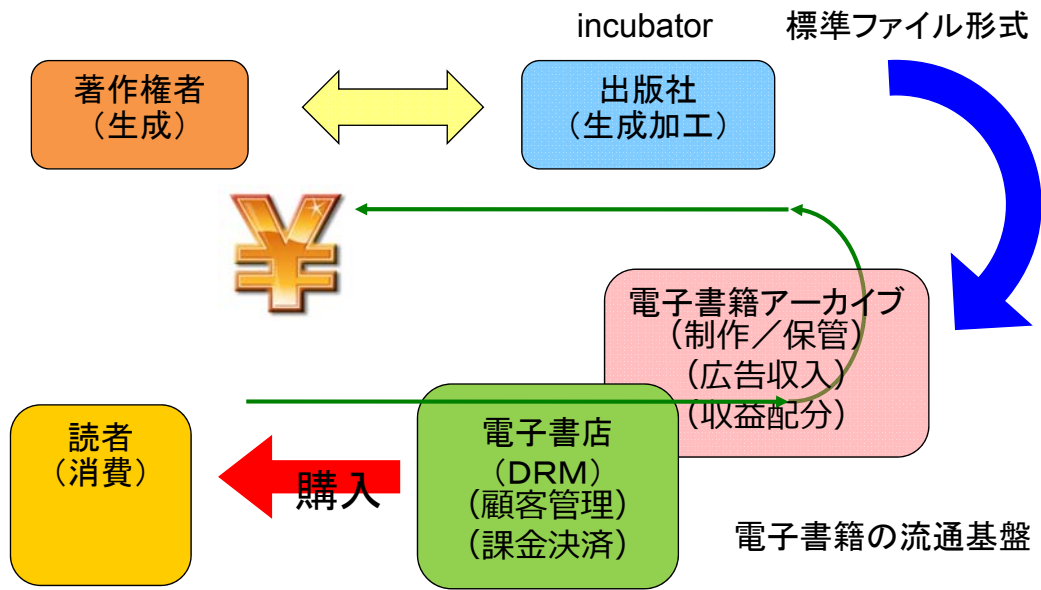


従来の出版流通と図書館

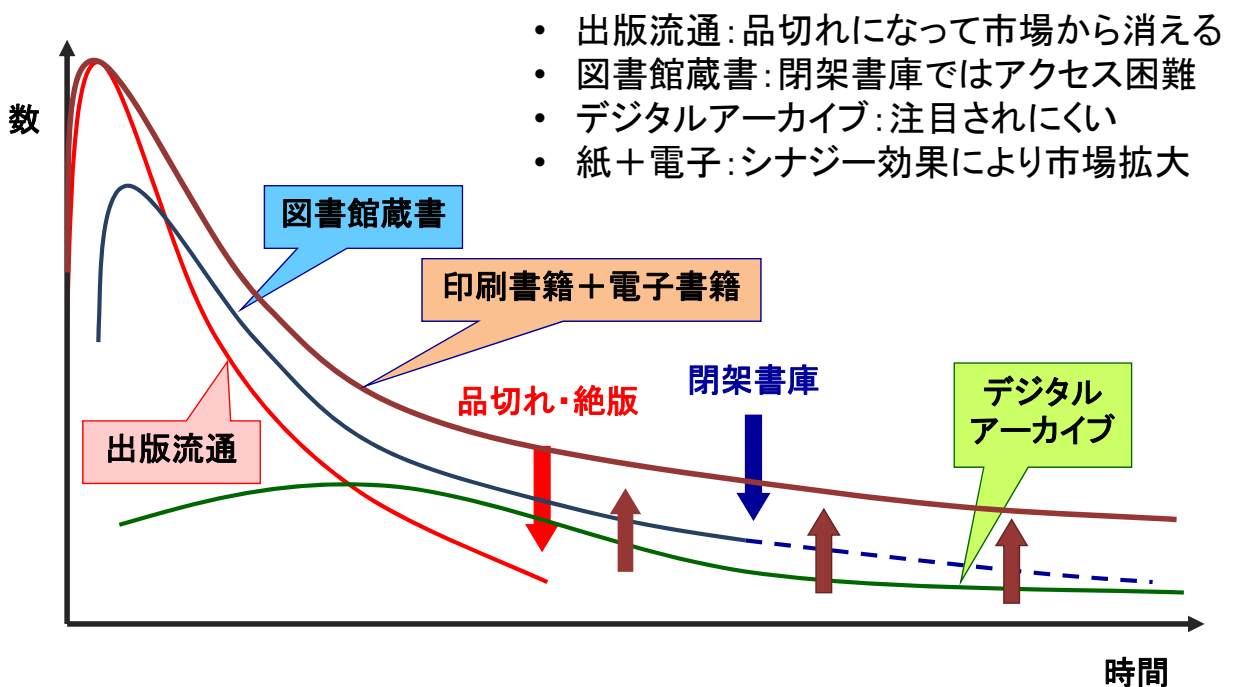


税金を使っているから無料なわけではない

電子書籍の流通基盤



出版流通と図書館蔵書とデジタルアーカイブ



“電子出版元年”以降の出版関連行政(1)

- 総務省, 経済産業省, 文部科学省「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」平成22(2010)年3~6月
 - 出版物の収集・保存や円滑な利活用のあり方, 出版物へのアクセス環境の整備
- ① 表現の多様性の確保
- ② 知のインフラの整備
- ③ 世界に負けないビジネスモデルの構築
- 総務省「新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業)」平成23年度
 - 電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト
 - 次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備
 - 次世代電子出版コンテンツID 推進プロジェクト
 - アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現
 - EPUB 日本語拡張仕様策定 他5事業

“電子出版元年”以降の出版関連行政(2)

- 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
 - 平成22年11月設置 報告書公表 平成24年1月
- ① デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方
- ② 出版物の権利処理の円滑化
- ③ 出版者への権利付与
- 経済産業省「書籍等デジタル化推進事業」平成23年度
 - 個々の出版物の特性に応じた契約を円滑化する取組の構築
 - 中間・交換フォーマットの出版社・印刷会への普及促進
 - 外字・異体字が容易に利用できる環境の整備
 - 書店を通じた電子出版と紙の出版物のシナジー効果の発揮
- 電子書籍の流通環境が未熟であり, 戦略的な基盤づくりが求められている
 - 小資本の出版社でも参入できる環境整備
 - 電子書籍制作のノウハウの共有

株式会社 出版デジタル機構 (パブリッジ)

- 出版デジタル機構は、電子出版ビジネスのためのインフラストラクチャーの提供を通じて、あらゆる本が電子書籍として読める読書環境を整備。電子出版に関わる様々なビジネスモデルを支援して、誰もが電子出版による自由な言論表現活動に参加できる社会の実現を目指します。
- 多くの出版社による提案により設立(2012.4)。直ちに政府系ファンド(150億円)や大手印刷会社の増資
- パブリッジが架け橋となることで
あらゆる端末、あらゆる書店、あらゆる出版社を結ぶ。全ての著者、読者が参加できる場を作りたい



株式会社 出版デジタル機構

2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

21

経済産業省「コンテンツ緊急電子化事業」 平成23年度補正予算

- 事業趣旨
 - 電子書籍市場の拡大と東北大震災被災地域の雇用促進に向けて、書籍の電子化作業に要する製作費用を国が補助する
 - 補助率は費用の50%, 補助金額約10億円(事業総額: 約20億円)
- 補助金達成率(4月15日速報) 99.7% 9億5063万円
- 参加出版社数は460社
- 電子書籍制作ファイル数 6万4833点
- フォーマット: あらゆる電子書店の配信に対応
 - フィックス型(校正不要で制作費が安く, 早い)
 - TIFF 600dpiで画像化(OCR対応可), JPEG圧縮での課題
 - 表・図版入り書籍(専門書)の電子化に向く。一方, 図版の文字が読みにくい
 - リフロー型(DTPデータと文字入力から制作)
 - .book, EPUBへの対応

2013/5/23

© Yashio Uemura 2013

22

出版物に関する権利の検討

- 2008年 グーグル・ブック検索訴訟、和解案予備承認
- 2009年 国会図書館デジタル化に127億円の補正予算
- 2010年 総務・文部科学・経済産業「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」
- 2011年 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
- 2012年 書協が、権利付与が電子書籍市場に与える全般的影響を調査
文化庁は、法制面の検証会議を実施
- 2012年6月 「印刷・電子文化の基盤整備に関する勉強会」(中川勉強会)
中間まとめ公表
- 2012年6月 活字文化議員連盟 声明発表
- 2013年1月 第1回『出版物に関する権利』運用ガイドライン委員会
- 2013年2月 経団連意見書を公表
「電子書籍の流通と利用の促進に資する『電子出版権』の新設を求める」
- 2013年3月 中川勉強会中山研究会報告を受けて方向性を打ち出す

TPPとオーファンワークス

- オーファンワークス(孤児著作物)
 - 国会図書館「明治期図書7万3千人の著者の71%」
 - 英国図書館「所蔵作品1億5千万件の40%(推計)」
 - 米国大学共同電子図書館「学術資料500万点の50%(推計)」
- EU:2012年「孤児著作物に関する指令」
 - 一定の調査(EU全体で認定)
 - 非営利のアーカイブに限り域内で利用が可能
 - 課金も可(用途は限定)
 - 著作権者はオプトアウト可
- 米国:2008年「孤児作品法案」の検討再開
- 日本:文化庁長官の裁定制度
 - 求められる「相当な努力」

福井健策2013.5.17講演資料+朝日新聞2013年5月21日付朝刊より

NDLオンライン資料の収集

- 「平成25年7月1日から、納本制度に準じ、民間で出版された電子書籍、電子雑誌等を収集・保存します。当面、無料かつDRM(技術的制限手段)のないもの限定して、収集します。なお、オンライン資料とは、インターネット等により出版(公開)される電子情報で、図書又は逐次刊行物に相当するものであり、電子書籍、電子雑誌等を指します」
- http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/online_data.html

知の構造体の変容

- 過去: 知と情報は紙／印刷によって流通・保存
- 現在: ネット上に膨大なデジタル情報が創出
- 多くのデジタル情報は信頼性が担保されていない
 - 知識の構造化体系化 から 情報検索データ集合 へ
 - 作家性 から 集合知 へ
 - 責任の明確(実名) から 曖昧性(匿名性) へ
 - 信頼性/権威性 の喪失
- 出版者は知のインキュベータとしての機能を果たす

これからの出版

- 出版社が書籍とデジタル書籍を同時に刊行する
- ハイブリッド(紙+デジタル)販売／購読が普及する
- 相対的に紙のシェアは低下する
- ディスプレイ上で書籍(図書), 雑誌(逐次刊行物), 新聞(逐次刊行物)が再編され, 区別がなくなる
- 「出版とは印刷物を発行すること」, 「読書とは紙の本を読むこと」は, いずれも過去の概念となる
- 出版物のデジタルアーカイブ・電子図書館は民間によるデータサービスとして普及する
- 民間事業におけるサービスの中止, 倒産・買収による喪失の危険は今後とも続く